

研究・製造拠点の充実化

■ 水無瀬研究所新研究棟竣工

2016年3月に、水無瀬研究所内で建設を進めていました第三研究棟（増築）および付属棟が完成しました。これに伴い、化合物の合成・分析機能を水無瀬研究所に集約し、この新研究棟を「ものづくり拠点」と位置づけ、創薬シーズ探索の研究初期から治験に至るまでの連携を強化し、研究開発を推進していくことで、さらなるスピードアップを図ります。

新研究棟は自然環境にやさしく、省エネや BCP（事業継続計画）に配慮するとともに、研究者間の交流やコミュニケーションを活発化させるレイアウトを採用するなど、イノベーションを育む環境にも配慮しています。またBCP対策としては、研究所全電気容量の1/3の発電容量のある非常用発電機の設置、地震対策として免震装置の導入を行いました。



水無瀬第三研究棟

■ 山口県での新工場設立に向けて

現在当社は、静岡県富士宮市にメインのフジヤマ工場がありますが、BCP（事業継続計画）の観点から、自社工場を大阪以西のもう一拠点で設立する考えを持っていました。その新工場拠点として、この度、山口市の山口テクノパーク内の工場用地を取得しました。中国地方は地震などの災害の可能性が低い地域であり、その中でも山口市はインフラが整備されており、主要公共交通機関からのアクセスおよび道路の整備が非常に良い地域です。

稼働開始時期は2020年を予定しており、新工場ではオプジーボなどの主力注射剤を製造できる体制を整えるとともに、今後承認が見込まれる注射剤も製造する予定です。山口市に製造拠点を新設することにより、フジヤマと山口が両輪となって、当社製品の安定供給を支える体制を整えていきます。